

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

専門と教養とのバランスのよい勉強が豊かな人生をもたらす 鎌田 浩毅 (京都大学大学院教授)

1. デューイは 20 世紀前半にアメリカで活躍した哲学者で著書「民主主義と教育」(岩波文庫)では、自由と民主主義の時代にあるべき実践的な教育について、自由^{かたつ}闊達に論じている。新しい時代には、誰もが人格的に豊かな生き方をするための教育が必要と説く。そのためには万人に対して「教養」の教育が必要となる。
2. 教養とは、「育成されたもの、成熟されたものを意味する。つまり、生のものや、未熟なものに対立するのである。また教養は、人格的なものである。つまり、それは、思想や芸術の鑑賞や広い範囲にわたる人間の関心事に関して修養をつんでいることなのである」。現代でも職業教育など目に見える能力の獲得だけ重要視されるきらいがある。
3. そもそも勉強は学校時代で終わりではなく、一生にわたって不可欠である。自分の仕事に必要な知識だけでなく、幅広い教養を身に付ける学習も続けなければならない。より高いレベルの仕事をするうえでも、よい人脈に恵まれるためにも、さらに、豊かな人生を送るためにも、専門と教養とのバランスのよい勉強が一生にわたって意味を持つのである。
(参考:「週刊東洋経済」2010年9月11日号)

経営者のための営業学

営業のイロハから指導

大塚 裕司 (大塚商会社長)

1. 業績が悪化して、まず考えたのは営業の底上げでした。社員を「良い子」「悪い子」「普通の子」に分け、「悪い子」である営業成績が下位の 30%を「U30 (アンダー30)」と名づけ営業のイロハから指導することにしました。大塚商会では、以前から全員の営業成績を公表しています。
2. 当初、若手の再教育を意図していましたが、ベテランの中にもU30の対象者が多くいたので驚きました。新しい収益分野の開拓は、1人の力だけではなし得ません。個々の社員の底上げと共に、その社員の力を全体として発揮していく仕組み作りが必要になっています。今ほど組織体力作りが求められている時代はありません。
(参考:「日経ビジネス」:2010年9月6日号)

新規成長分野

未利用魚の有効活用が本格化

1. 日本各地の魚市場には毎朝、漁師が獲ってきた新鮮な魚が届く。トロ箱の中に氷詰めされ整然と並べられた魚は、形やサイズがそろって見栄えもいい。だが、規格外の魚は除外される。こうした「未利用魚」は、廃棄や飼料用になって食卓に上ることはない。しかし近年、水産資源の有効活用の見地から、未利用魚を有効活用しようという動きが各地で本格化してきた。
2. 長崎県佐世保の市中央卸市場では、市場の3階にある「魚市場もったいない食堂」で、未利用魚を料理し、一般客に好評という。また、全国の生協を通じた未利用魚の販売も人気上昇中。切り身にした「もったいないセット」は、月間1800セットを売り上げる。未利用魚に光を当て、少しでも売れば漁師のためにもなる。
(参考:「野村週報」2010年11月8日号)

古典に学ぶ

熱塾と断行を両立させよ

「慮^{おもひ}らずんば なんぞ獲ん 為^なさずんばなんぞ成らん」

(訳)「書経」という古典にある言葉です。まずわかりやすく訳してみましよう

「思慮深くなければ成果をあげることはできない。断固実行しなければ目的を達することはできない」というのです。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)